

熊本地域乗合バス事業共同経営 に関する状況報告

(2025年7月)

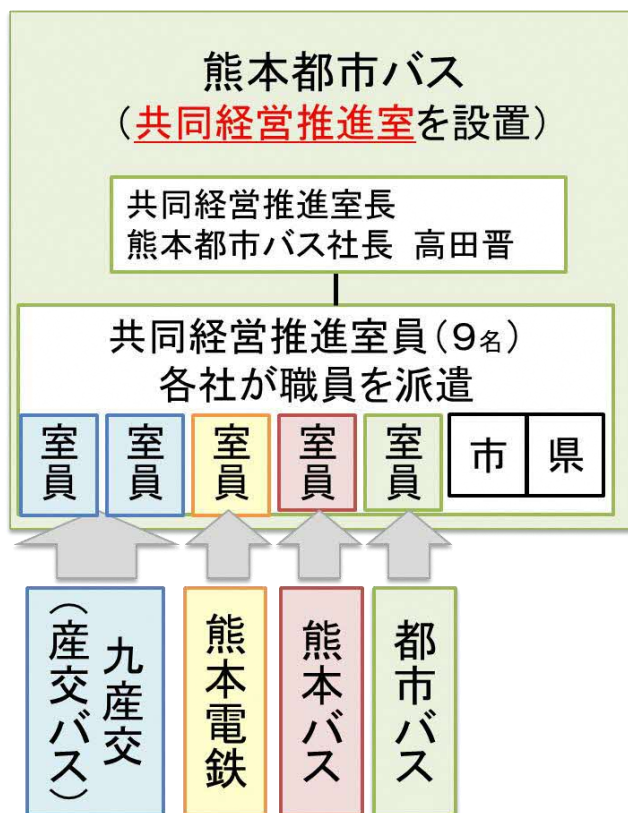
共同経営推進室

室長 高田 晋

- 1** 共同経営推進室の体制と取組み事業
- 2** 熊本市内中心部180円均一運賃
- 3** 共通定期
- 4** 路線バス利用者 2 倍増に向けた取組み
- 5** 運転士数の概況
- 6** タッチ決済サービス開始
- 7** 共同経営推進室 2025年度事業について

熊本の公共交通ネットワークにおいてバス交通が担うべき役割（＝あるべきバス路線網）を将来にわたり維持し、かつその利便性・生産性を最大限向上させるため、会社間の垣根を越えて路線再編等の取組を実施するため、2020年4月より「共同経営準備室」を設置し、2021年3月より「共同経営推進室に移行」

体制



施策

- ・ 重複区間の最適化 (2021年、2022年)
- ・ 共通定期の開始 (2022年)
- ・ 大人100円・子ども無料の日 (2022年)
- ・ バスデータ公表 (2020年～)
- ・ 運行時分の適正化 (2022年～)
- ・ 利用者2倍増に向けた取組 (2022年～)
- ・ MYバス時刻表サービス開始 (2023年～)
- ・ 中心部180円均一運賃 (2023年)
- ・ **渋滞なくそう半額パスの実証実験 (2024年)**
- ・ **タッチ決済サービス開始 (2024年)**

1 共同経営計画第1版の概要

目標値達成
特に収益性は目標値の3倍の効果

3

申請者

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 九州産交バス株式会社 | (4) 熊本バス株式会社 |
| (2) 産交バス株式会社 | (5) 熊本都市バス株式会社 |
| (3) 熊本電気鉄道株式会社 | |

計画区域・対象路線

複数のバス事業者が重複して運行する代表4区間＋効率化で生じた余剰の充当先（熊本駅周辺の開発の対応） ※右図参照

共同経営の概要

①旧3号線方面の最適化〈植木・山鹿方面〉

重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置、熊本駅方面の路線延伸（余剰の充当）

②川尻市道方面の最適化〈川尻・松橋方面〉

重複路線の見直し、待ち時間の平準化

③産業道路・国体道路方面の最適化〈長嶺方面〉

重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置

④旧57号線方面の最適化〈楠・大津方面〉

重複路線の見直し、待ち時間の平準化、2社共通の乗継割引、熊本駅方面、武蔵ヶ丘・光の森方面の路線延伸（余剰の充当）

共同経営の目標

①収益性・効率性の向上

重複区間の効率化等により、収益性は約31百万円の改善、サービス維持に必要な人員5.6人/日・車両4.7台/日の軽減

②サービス提供維持の目標

利用者利便の水準を維持しつつ、対象55系統のサービス維持

実施期間

令和3年4月1日～令和6年3月31日までの3年間

対象路線図



2022年11月1日から開始

申請者

- (1) 九州産交バス(株) (2) 産交バス(株) (3) 熊本電気鉄道(株)
(4) 熊本バス(株) (5) 熊本都市バス(株)

実施期間

令和4年11月1日～令和7年10月31日までの3年間

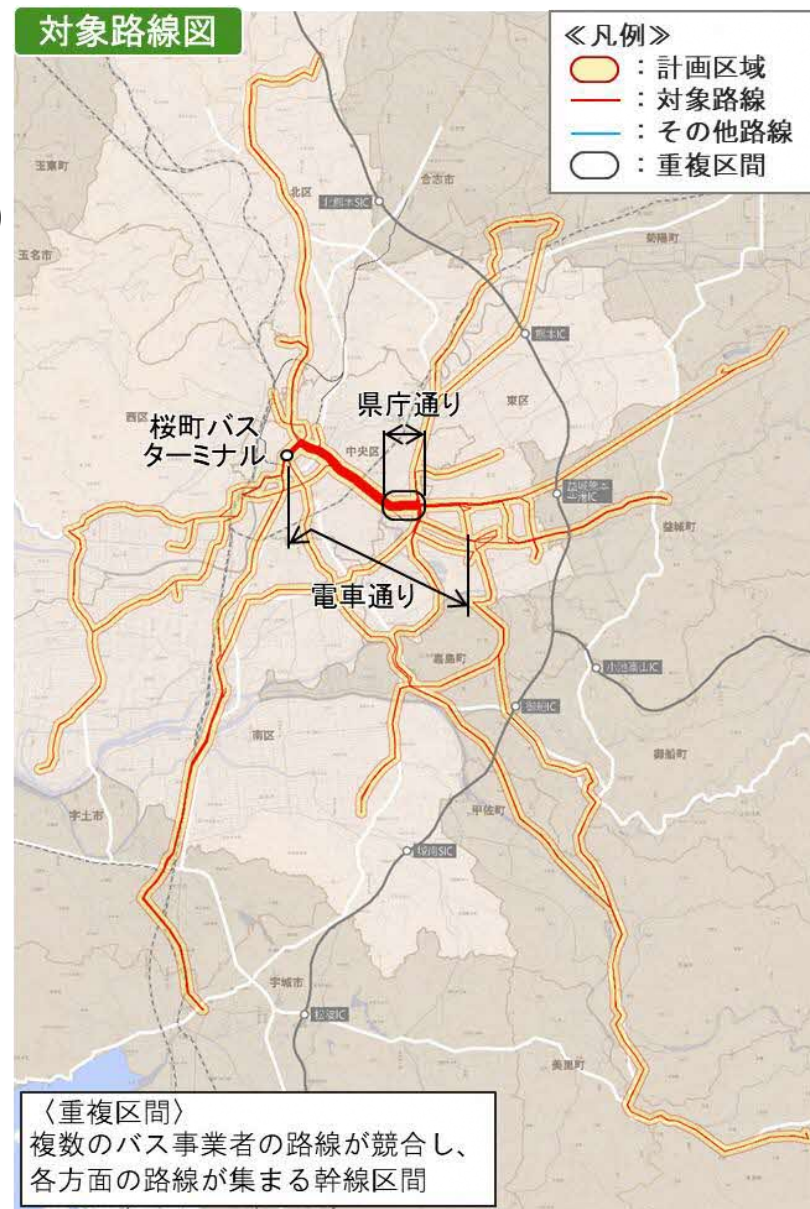
共同経営の概要

- ① **県庁方面系統の線の廃止** ➡ 九産交バス木山線の一部迂回で、
利便性を確保しつつ**最適化**
・ 経路変更や廃止による輸送の効率化、
都市バス秋津健軍つ、効率化
・ 待ち時間の平準化〔県庁通り（砂取校前～北窪間）〕

共同経営の目標

- ① **収益性・効率性の向上**
重複区間の効率化等により、**収益性は約24百万円の改善、サービス維持に必要な人員5人/日・車両4台/日の軽減**
- ② **サービス提供維持の目標**
利用者利便の水準を維持しつつ、対象44系統のサービス維持
- ③ **労働環境の改善**
輸送の効率化による余剰で、運転手の労働環境を改善しつつ、現行の輸送サービスを維持する

対象路線図



- ▶2023年度の共同経営計画第3版では、更なる公共交通の利用促進及び利便性向上策として、**熊本市内中心部において180円均一運賃を実施**

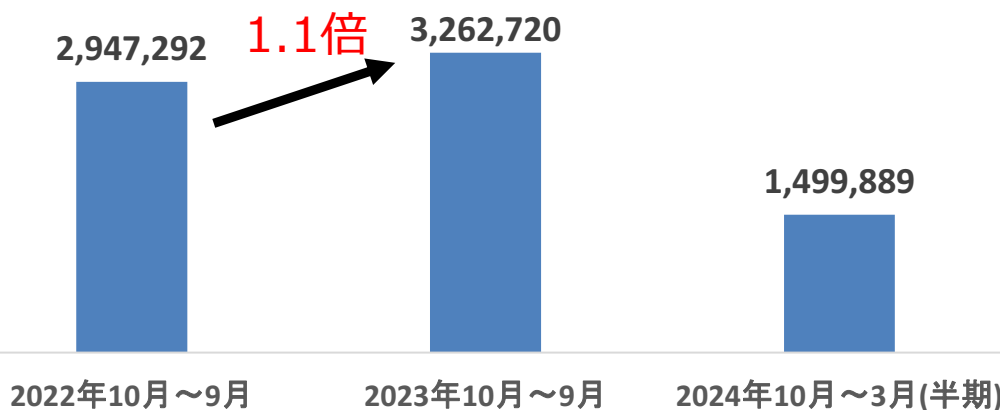
実施期間

令和5年10月1日～令和8年9月30日までの3年間

共同経営の概要

市内中心部エリアの均一運賃（180円）の導入

対象区域内で完結する路線バスの運賃を180円均一とすることにより、区域内を運行する路線バスと市電の運賃が同一となり、バスと市電で需要に偏りを是正し、市電の混雑緩和を目指すことで、公共交通利用者総数を増やしていく。



2022年4月1日より



これまでの定期券

熊本バスや熊本都市バスのバスもあるのに、定期の会社のバスしか乗れないのは不便だわ・・・



桜町バスターミナル



県庁前

4月1日以降販売の定期券

全ての会社のバスが利用できるようになったので、とても便利になったわ！



桜町バスターミナル



県庁前

産交バスの定期をお持ちの場合
利用可能便数
105便

※便数は平日片道

熊本バスや熊本都市バスも利用可能になり
利用可能便数

153便に 46%UP

※便数は平日片道

ICカード 支払い手段	2022年度 (1年目)	2023年度 (2年目)	2024年度 (3年目)	前年差	前年比
定期 利用人数	3,752,263人	4,300,469人	4,410,639人	+110,170人	103%

3年目も定期利用者増！
1年目と比較しても118%増

【路線バス利用者増に向けた取組実施及び推進】

- ・ 「マーケティング」手法を用い、市場に存在する顧客を、価値観やニーズが共通したグループ（①通勤 ②通学 ③私用 ④高齢者）に分類。
- ・ それぞれの顧客グループが持つニーズを満たす「バスの価値」を提供することで、利用者を増やす。 ※詳細は共同経営推進室HP「路線バスのデータ公表」参照

＜2024年度に実施した各グループの取組＞

①通勤

大津町・Hondaと連携した公共交通を利用した渋滞対策 など

※ 通勤バス実証実験（共創モデルプロジェクト）

②通学

高校オープンスクールでのチラシ配布、中学生への電子チラシ配布 など

③私用

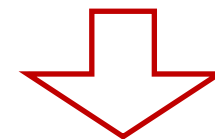
異業種と連携した情報発信や半額パス（実証実験） など

④高齢者

無料の日における利用促進策の実施、高齢者用割引施策の営業促進 など

2023年度利用者数

2,449万人



2024年度利用者数(速報値)

2,434万人

(目標値2,677万人)

バス会社、県、市の官民連携で利用者増に3年取り組んで来た。過去2年は目標を達成してきたが、2024年度は目標に届かず、かつ前年比割れの結果に終わった。

大津町渋滞対策プロジェクトチーム主催で2024年10月より大津町通勤バスの運行を開始し
2025年度も引き続き運行（公共交通を活用した渋滞対策実証事業を展開）

【実証実験：大津町通勤バスの運行】

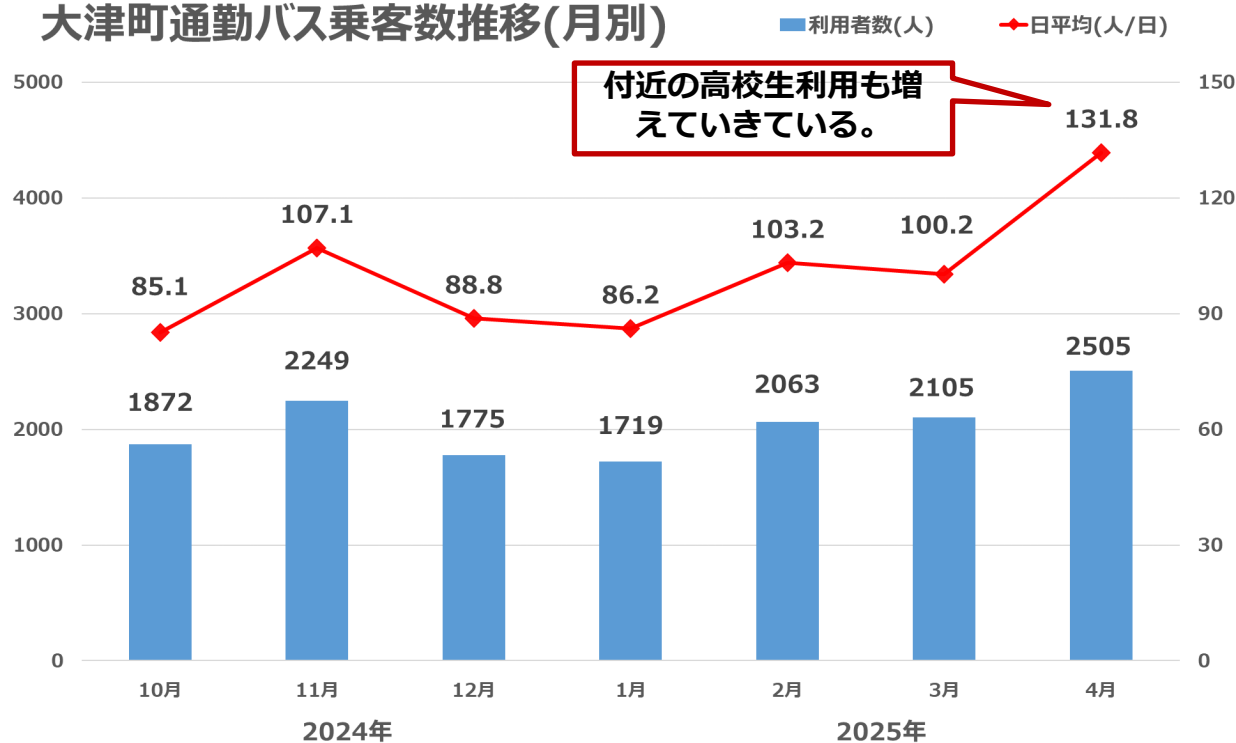
お客様(ターゲット)：本田技研工業従業員、室工業団地従業員、翔陽高校生徒

【主催】：大津町渋滞対策プロジェクトチーム（大津町、本田技研工業(株)熊本製作所、(株)構造計画研究所、産交バス(株)[共同経営推進室]、熊本県北広域本部）

【目的】：通勤、通学時に公共交通を利用することによる、大津町含む菊池南部地区の渋滞対策、環境保護 等

【運行内容】：肥後大津駅(北口)～翔陽高校入口～本田技研工業前～本田技研工業西～本田技研工業南～本田技研工業東
 運行本数：朝8便、夕12便

大津町通勤バス乗客数推移(月別)



付近の高校生利用も増えていきている。

ラッピングバス



4 (通学) 高校新1年生(中学3年生)への利用周知

9

協力 熊本県内12高校(公立, 私立)

方法 オープンスクール 来場者へ学校敷地内にてチラシ配布
合格者説明会 説明会に参加しブースを設置



	市立		県立							私立		
	必由館	千原台	済々黌	第一	熊本西	東稜	御船	鹿本	鹿本商工	ルーテル	九州学院	尚絅
オープンスクール配布数 (※加口は資料への封入)	716枚	250枚	(1200枚)	980枚	(450枚)	(900枚)	212枚	305枚	129枚	379枚	433枚	183枚
合格者説明会 ブース来場者数	62名	4名	24名	75名	25名	10名	28名	20名	30名	43名	17名	17名
特別定期券申込書 回収数量	63枚	3枚	129枚	100枚	9枚	9枚	14枚	26枚	23枚	52枚	10枚	19枚

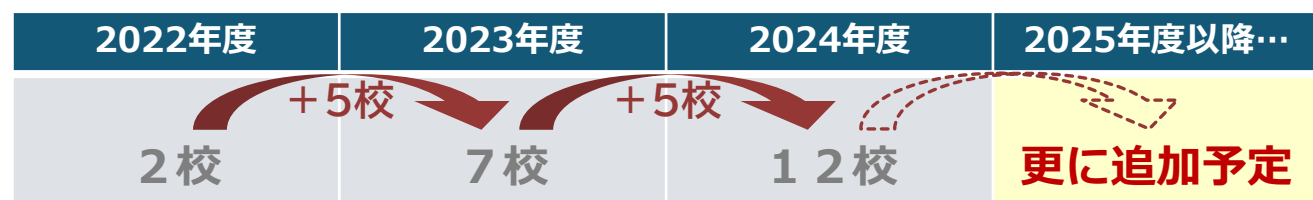
《オープンスクールの様子》



《合格者説明会の様子》



協力学校数これまでの変遷



入学後に、新入生/在校生/各保護者へ通学手段に関するアンケート調査

ご協力をお願い
通学手段に関するアンケート調査

熊本県バス株式会社では、通学時にバスを利用いただけるよう、
どのようなサービス提供が必要なのかを検討しています。
学校の協力のもと、通学に関するアンケートを実施しますので、
ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

対象者 全生徒 各保護者

回答方法 WEB アンケート
URL または QR コード からアクセスしてください。
(アンケートはスマートフォンで実施します。)

高校生用 アンケートへのアクセスは、●月●日までにお願います。

1年生
ここをクリック
<https://forms.gle/8v8v8v8v8v8v8v8v>

2・3年生
ここをクリック
<https://forms.gle/8v8v8v8v8v8v8v8v>

保護者の方
ここをクリック
<https://forms.gle/8v8v8v8v8v8v8v8v>

熊本のバス会社を
共同経営推進室

熊本市中央区山手2丁目4-32 TEL: 096-232-0088 (受付: 9時~17時、定休: 土曜、日曜)

九州旅客バス 鹿児島バス 熊本バス
熊本県バス 熊本電報バス

【実施概要】

平日9時以降および土休日に降車する利用において、対象の路線バス・市電・電鉄電車を半額で利用可能とするサブスクチケットを販売した。

- ・ **名称** : 渋滞なくそう！半額パス
- ・ **対象期間** : 2024年10月1日（火）～2025年2月28日（金）
- ・ **販売金額** : 2,500円（うち500円はデポジット）
- ・ **利用方法** : 半額パスの会員証の提示および実証実験用の「くまモンのICカード」の利用
- ・ **備考** : 土休日は同伴者も対象（大人1人まで、小人は何人でも対象）



+



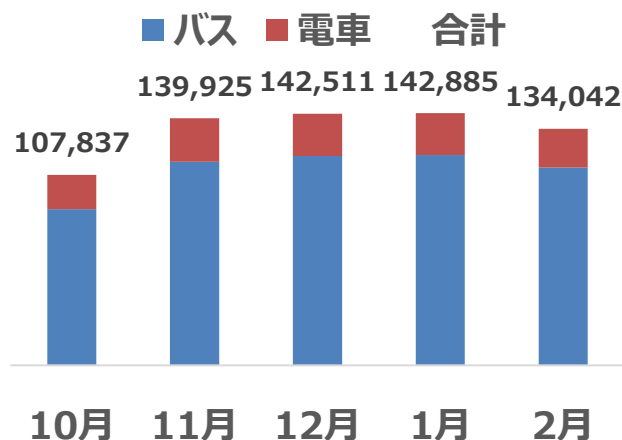
販売状況



**当初目標の約5倍
8,034枚販売
女性を中心に長い列**

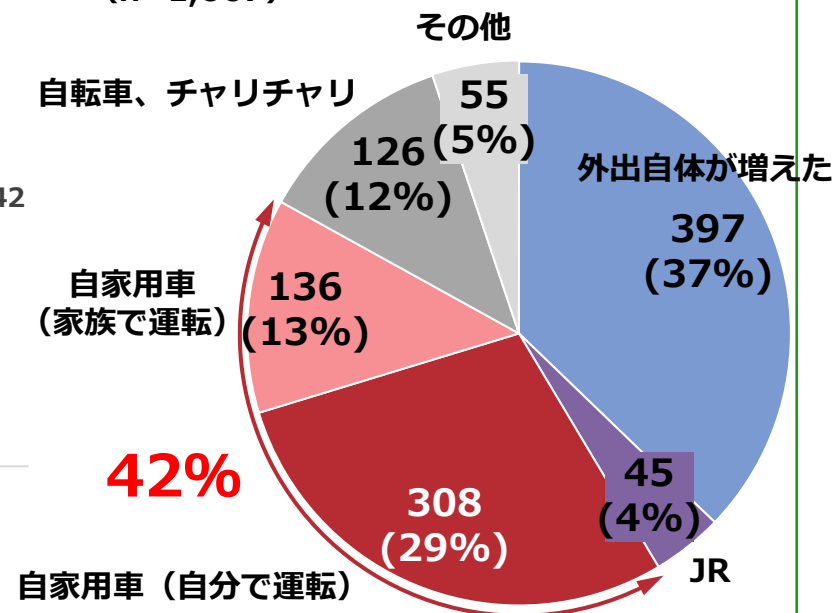
利用状況

期間中の半額パス利用総数
667,200回



月を経過するごとに利用者が増え、結果約67万回の利用

どの交通手段から公共交通に変更したか
(n=1,067)※半額パス利用者アンケート



42%

自家用車（自分で運転）

**37%外出を創出
42%車からの転移**

体制

企画：共同経営推進室  協力：熊本県、熊本市

実証実験
結果

- ① 実証期間中の公共交通（特にバス）利用回数は約26万人純増、オフピーク時（平日9時以降、土日）の利用者増を達成。
- ② 車から公共交通への遷移により延べ約10万台の車を削減。これに伴う便益は約1億円と推計される。
- ③ 新規外出の増加により熊本市内中心部への外出だけで延べ約36千人の増加が見込まれ、その消費効果は約1.8億円の消費増効果と推計される。

結論

政策的な割引(公的投資)を組み合わせることで潜在能力を最大限に引き出した結果、公共交通は単なる移動手段に留まらず、車社会からの転換や中心市街地の活性化といった地域の持続的な発展に向け継続すべき取り組みであることが確認できた。

事業の概要

路線バスは、道路事情やお客様混雑等で遅延が発生し、利用客の満足度を下げる大きな要因となっているため、過去の運行実績データを基に、適切な運行時分を設定することで定時性向上を目指すもの。

実施状況

- ・進捗状況：1年目はあまくさ号・田迎線・浜線BP、2年目は旧3号線・JA飽田線
3年目は旧57号線・谷尾崎・万楽寺・小天天水・空港リムジンバスで実施

取組の効果

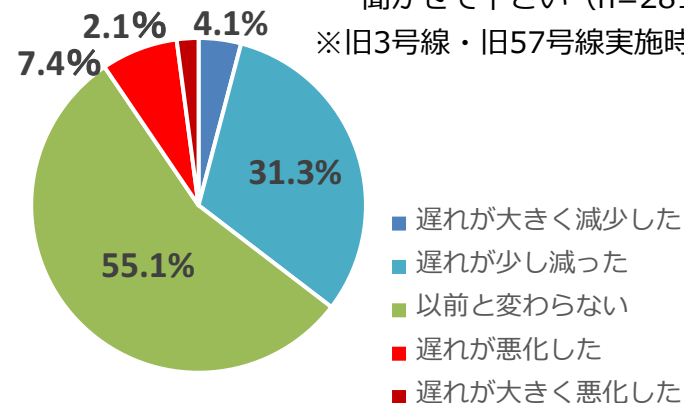
10月の最大遅延中央値の比較（中心部を通る路線）

		時間帯		
曜日	年度	07-09*	09-16*	16-19*
平日	2023	10.8	6.9	10.6
	2024	11.0	6.8	10.9
土曜	2023	7.2	9.8	11.6
	2024	7.1	9.0	10.1
日曜	2023	5.9	6.8	6.8
	2024	6.1	7.1	7.2

10月の最大遅延中央値の比較（旧3号線・旧57号線）

合計 / 方面			時間帯		
曜日	年度		07-09	09-16	16-19
山鹿	平日	2023	11.4	6.3	9.3
		2024	7.3	5.6	7.6
	土曜	2023	5.9	9.0	8.4
		2024	5.6	6.5	6.3
	休日	2023	5.8	7.4	7.6
		2024	4.8	5.6	6.9
光の森	平日	2023	11.3	6.4	11.9
		2024	8.1	5.4	9.3
	土曜	2023	7.6	11.1	14.0
		2024	5.9	7.8	7.3
	休日	2023	6.5	7.2	6.7
		2024	5.2	6.2	6.4

時分適正化以降の遅れの印象を聞かせて下さい（n=281）
※旧3号線・旧57号線実施時

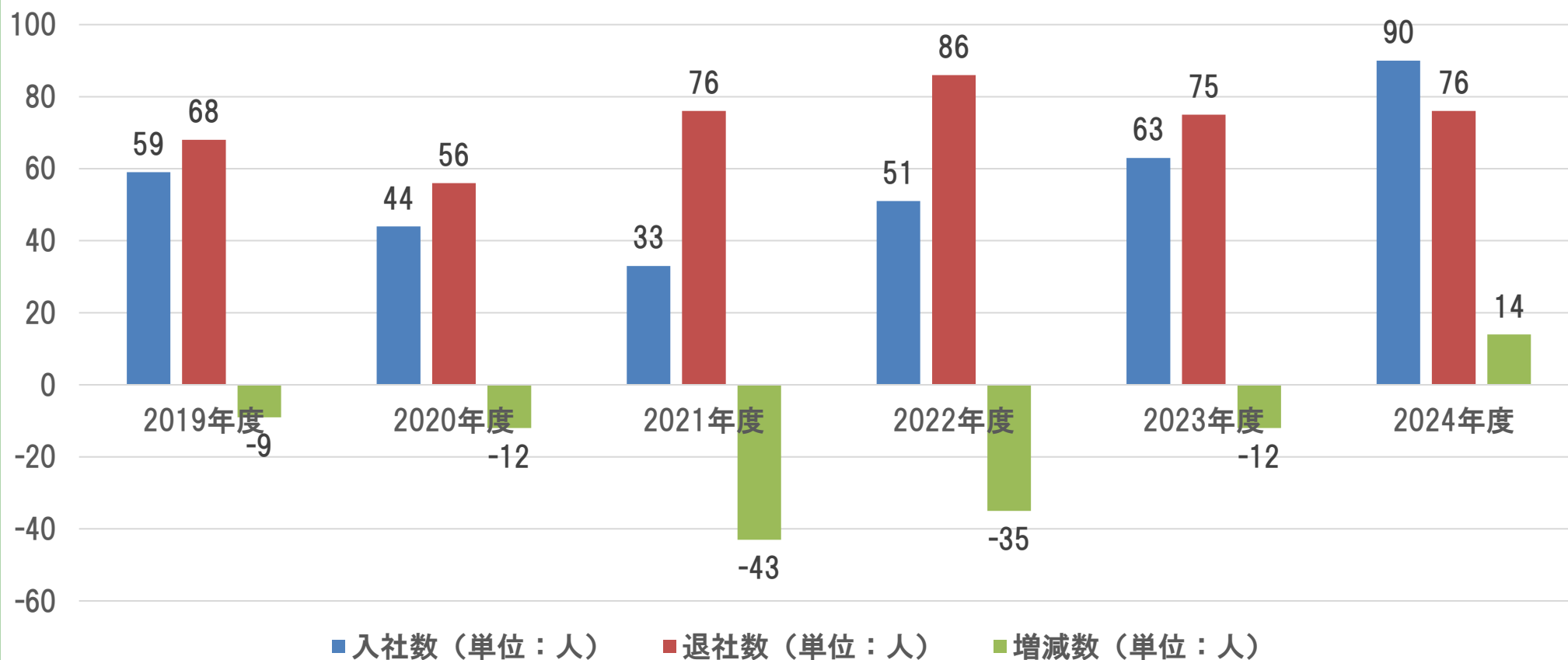


路線全体では遅延が発生している中、適正化を実施した箇所については改善効果が見られたため今後も実施箇所の拡大を進めて参ります。

今年度の取組

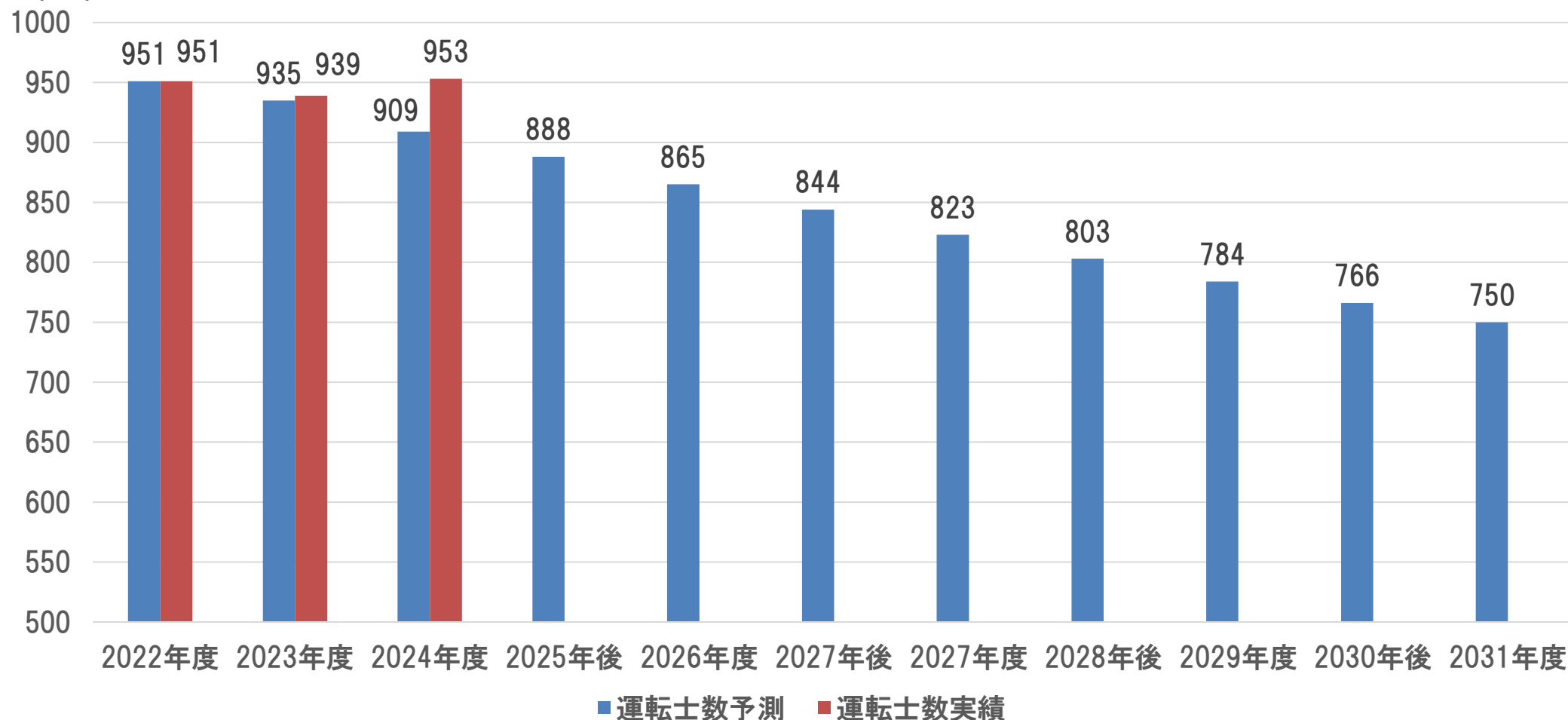
- ・これまでの取組を踏まえて導入路線を拡大します。
現段階では、①都市バスの主要路線 ②九州産交の熊本・木山・松橋方面で実施予定です

2024年度は運賃改定後、各社待遇改善や採用活動等を積極的に行った結果、**プラスに転じた**。しかし、5社で運転士が50名不足している状況であり、更なる対応が必要であり、本年度共同経営推進室にて施策を検討する。



過去の入退社数トレンドや経年による年齢構成変化を基に将来の在籍運転士数（※1）を予測した結果、2022年度を基準として**今後10年で201人減少**する結果となった。2024年度では改善しているが、各社運転士の高齢化や休日確保等の労働環境改善を行っており、不足の状況には変わりない。

（※1）高速バスに在籍する乗合バスに乗務できる運転士を含む



- 全国交通系ICカードのリプレイスを断念し、2月24日よりクレジットカード等のタッチ決済をスタート
- 全国交通系ICではできなかったタッチ決済にて割引サービスや、1日券のデジタル化をQRで実装



◆新端末



◆タッチ決済乗継サービス

異なるバス会社・電鉄電車・路面電車の乗継や、往復利用でも、



降車後 60分 以内の乗車の場合、

2回目の乗車料金を 20円 割引

対象
決済



くまモンのIC

拡大

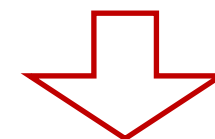


クレジットカード
等のタッチ決済

◆タッチ決済普及状況（導入路線）

初週（2/24～3/2）

5.5%



5月実績

9.7%

熊本地域における公共交通ネットワークの利便性・生産性を最大限向上していくため、県内バス事業者5社が会社間の垣根を超えて、取組みを実施していく。

1 路線バス利用者増に向けた取組実施及び推進

2 バスの運行時分適正化と効果検証

3 路線バスのデータ公表

4 リデザインの取組み

持続安定的にサービス提供するために、交通事業者（電鉄電車、市電、バス、タクシー）、行政が連携し、熊本都市圏公共交通ネットワークのリデザインと共同経営事業の発展を目指すもの

5 運転士不足解決に向けた取組み



共同経営事業を着実に進め、県民市民の皆さんの移動手段の確保に努めていく